

名古屋徳洲会総合病院 大垣徳洲会病院

心臓血管外科 年報 2026

発行・制作

医療法人 徳洲会
名古屋徳洲会総合病院
〒487-0016 愛知県春日井市高蔵寺町北2丁目52番地
TEL 0568-51-8711 / FAX 0568-51-7115

医療法人 徳洲会
大垣徳洲会病院
〒503-0015 岐阜県大垣市林町6丁目85-1
TEL 0584-77-6110 / FAX 0584-77-6125

心臓血管外科特設サイト



総長 心臓血管外科 部長

大橋 壯樹

集約化した高度専門治療認定施設として義務を果たす

昨年も「緊急手術を断らない」「最新の低侵襲手術を安全に行う」というモットーのもと、数多くの手術に取り組んでまいりました。現在は指導医2名、専門医4名を含む計10名の充実した体制を整えております。医師の働き方改革にも積極的に取り組み、深夜の緊急手術翌日を休みとするなど、無理のない診療体制を構築することで、さらなる手術の安全性向上を図りました。昨年は、MICS（内視鏡・ロボット手術）の症例数が大幅に増加したほか、A型大動脈解離の手術は年間100例を超え、腹部大動脈瘤外科手術は63例で、国内最多の症例数を経験させていただくに至りました。

また、大垣徳洲会病院には関西屈指の実績を持つ山中先生を招聘いたしました。今後は名古屋徳洲会との緊密な連携により、岐阜西濃地区の心臓血管外科治療をより一層強化してまいります。これまで以上に謙虚な姿勢を忘れず、ご紹介いただいた患者様を一人も断ることなく大切に診療してまいります。今後ともご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

本年より内視鏡的心臓手術の第一人者である伊藤敏明先生（前 名古屋第一赤十字病院）を徳洲会グループに迎えることができました。

伊藤先生は湘南鎌倉総合病院を拠点としつつ、名古屋徳洲会総合病院においても手術を執刀されます。新体制となった徳洲会の心臓外科に、どうぞご期待ください。



▲名古屋徳洲会総合病院 心臓血管外科



▲伊藤 敏明 顧問

(湘南鎌倉総合病院 心臓血管外科 統括部長)



心臓血管外科 部長

細羽 創宇

「地域とともに、より良い心臓外科医療を目指して」

2025年は、大橋総長をはじめとする当院の医師・スタッフ、そして地域の先生方のご支援のもと、心臓血管外科チームとして多くの患者さんの診療に携わることができた一年でした。日頃より患者さんをご紹介いただき、診療にご理解とご協力を賜っていることに、心より感謝申し上げます。この一年を通じて、低侵襲心臓手術への取り組みをさらに進め、内視鏡下心臓手術を中心に、安全性と確実性を重視した治療実績を積み重ねることができました。2026年は、これまでに培ってきた経験を基盤に、心臓血管外科としての役割を改めて見つめ直し、地域医療の中でより信頼される存在となる一年にしたいと考えています。患者さん一人ひとりの病状や生活背景を踏まえ、地域の先生方と密に情報共有を行いながら、適切なタイミングで専門的治療を提供できる体制づくりをチーム一丸となって一層強化してまいります。また、術後フォローや逆紹介を含めた連携をより円滑にし、地域完結型医療の実現に貢献していきたいと考えております。加えて、若手医師の育成にも力を入れ、将来にわたり地域医療を支える人材の育成にも取り組んでまいります。2026年も、地域の先生方とともに患者さんを支えることができるよう、質の高い心臓血管外科医療の提供に努めてまいります。今後とも変わらぬご指導、ご連携を賜りますようお願い申し上げます。

2024年3月までは、大橋総長が直接手術に入って指導する体制でしたが、4月に山中一郎、児島昭徳が赴任し、5月には金光尚樹が赴任したことで4人体制となり独立して手術ができるようになりました。しかしながら、スタッフや設備、器具などはまだまだ不十分で、大橋総長をはじめ、名古屋徳洲会病院の多くのスタッフのお世話になりました。おかげでようやく心臓血管外科手術の大半を自前でできるようになりました。我々の目標は西濃地域の中核となる循環器病センターです。MICSをはじめとしてあらゆる弁膜症手術、最新のCABG手術を既に実践してきており、今後さらなる症例数の増加を目指しておりますが、中でも大動脈疾患の治療に力を入れていきたいと考えております。



大垣徳洲会病院

心臓血管外科 部長

山中 一郎

「新生！大垣徳洲会病院 心臓血管外科」

2024年3月までは、大橋総長が直接手術に入って指導する体制でしたが、4月に山中一郎、児島昭徳が赴任し、5月には金光尚樹が赴任したことで4人体制となり独立して手術ができるようになりました。しかしながら、スタッフや設備、器具などはまだまだ不十分で、大橋総長をはじめ、名古屋徳洲会病院の多くのスタッフのお世話になりました。おかげでようやく心臓血管外科手術の大半を自前でできるようになりました。我々の目標は西濃地域の中核となる循環器病センターです。MICSをはじめとしてあらゆる弁膜症手術、最新のCABG手術を既に実践してきており、今後さらなる症例数の増加を目指しておりますが、中でも大動脈疾患の治療に力を入れていきたいと考えております。

2024年10月以降は、24時間緊急手術に対応できる体制になりましたが、認知度が低いせいか、急性大動脈解離や腹部大動脈瘤破裂手術症例は伸び悩んでおり、まずは地域の信頼を獲得することが先決であると考えております。TEVAR, EVARの認定施設にもなり、循環器内科とタッグを組んで血管内治療にも積極的に取り組んでいく所存です。

新しい取り組みとしては、心房細動患者に対する完全内視鏡下左心耳閉鎖術、下肢静脈瘤に対するグルー治療とレーザー治療があります。2026年はこれらの治療を軌道に乗せることも目標の一つです。この1年よろしくお願い申し上げます。

当院で施術可能な「認定治療」



- 完全内視鏡下弁膜症手術
- 低侵襲冠動脈バイパス手術(Robotic MIDCAB)
- ダヴィンチロボット補助内視鏡下僧帽弁形成術
- 経皮的僧帽弁形成術(MitraClip)
- 経皮的冠動脈弁植込術(TAVI)
- 体外式補助人工心臓治療(LVAD)
- 経皮的補助人工心臓(IMPELLA)
- 植込み型補助人工心臓
- パワードシースによる経静脈リード抜去術
- リードレスペースメーカー
- 植え込み型除細動器(ICD)
- 両室ペースメーカー移植術(CRT)
- 経皮的人工血管内挿術(ステントグラフト)
- 経皮的卵円孔閉鎖術(PFO)
- 経皮的左心耳閉鎖術(Watchman)
- パルスフィールドアブレーション(PFA)



▲大垣徳洲会病院 心臓血管外科

ご挨拶 名古屋徳洲会総合病院

やまうち ひろたか 医長 山内 博貴

2026年を迎え、当科では本年も年始より、緊急手術を含めた多くの診療に対応しております。日々発生するさまざまな症例に対し、迅速かつ確かな対応を行うことで、安全で質の高い医療の提供に努めております。



緊急症例に限らず、地域の医療ニーズに幅広く応えられるよう、医師・看護師をはじめとするスタッフ一同が連携し、日々研鑽と努力を重ねております。

当科では、内視鏡手術やステントグラフト治療などの低侵襲治療を積極的に取り入れ、患者さんの身体的負担の軽減に配慮した治療を行っております。複数の治療選択肢の中から、患者さん一人ひとりの病状や背景に応じて最も適した治療を選択し、安心して治療を受けていただけるよう取り組んでおります。心臓・大血管領域にとどまらず、末梢血管疾患やシャント手術にも対応し、幅広い分野での診療体制を整えております。

また、「地域医療機関をつなぐ会」への参加などを通じて、近隣医療機関の先生方との連携を大切にし、日頃から顔の見える関係の中で円滑な診療連携を築くことにも力を入れております。地域医療の一端を担う診療科



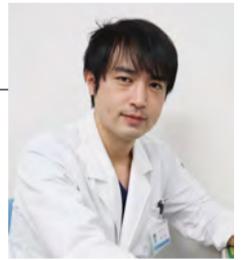
▲地域医療機関をつなぐ会でのあいさつ

として、今後も信頼される医療の提供を目指してまいります。

本年は体制のさらなる充実を図り、これまで以上に多くの症例に対応できるよう努めてまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

ひしかわ たかのり 医長 菱川 敬規

日頃より大変お世話になっております。当院心臓血管外科の一員として、日々診療に携わらせていただいております。



当院では、大動脈解離をはじめとした緊急性の高い重症心疾患の患者さんを数多く受け入れており、24時間365日、いつでも緊急手術に対応できる体制のもとで診療にあたっています。私自身も、その一翼を担う一員として、迅速かつ安全な治療提供を常に意識しながら日々の診療に取り組んでいます。日常診療および手術を通じて、基本手



▲術中の菱川医師（右）

技の徹底と手術手技の向上に努めるとともに、弁膜症手術、冠動脈バイパス術をはじめとした心臓外科手術全般において、確実性と再現性を意識した手技の習得を心がけています。

また、国内外のエビデンスや最新の知見を積極的に学び、論文発表や学会活動を通じて得られた知見を日常診療へ還元することを大切にしています。世界中で蓄積されている臨床経験や研究成果を取り入れ、地域の皆さまにより良い医療としてお届けできるよう、引き続き研鑽を重ねてまいります。今後もスタッフ一同と協力しながら、患者さんとご家族に安心して治療を受けていただける心臓血管外科を目指し、日々精進してまいります。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

かん けんた 菅 健太

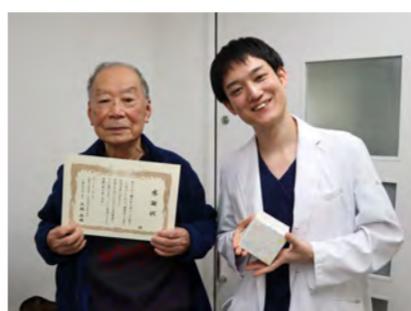
昨年は、多くの手術や症例に携わる貴重な機会をいただき、非常に学びの多い一年となりました。日々の診療や手術を通じて、症例ごとに異なる病態や治療方針に向き合いながら、心臓血管外科医として求められる判断力、技術、そして責任の重さを改めて実感する一年でもありました。同時に、自身の未熟さや課題を認識する場面も多く、学び続ける姿勢の重要性を強く感じています。



まだまだ経験不足な点も多くありますが、上級医の先生方から日々丁寧かつ的確なご指導をいただき、診療や手術の一つひとつを振り返りながら、着実に経験を積み重ねてきました。症例を重ねる中で、少しずつではありますが、状況に応じた考え方や対応が身についてきたことを実感しており、心臓血管外科医としての基盤を築いている段階であると感じています。

また、常に患者さんにとって最善の治療を目指し、医師・看護師・コメディカルを含めたチーム全体で連携しながら診療にあたる姿勢に触れたことは、自身にとって大きな学びとなりました。一人の医師としてだけでなく、チームの一員として責任を果たすことの大切さを学び、心臓血管外科医という仕事のやりがいや意義を改めて感じました。

これまでに得た経験を礎としながら、一つひとつの症例に真摯に向き合い、基本を大切に診療と確実な治療の提供に努めてまいります。



▲術後20年の患者さんへ感謝状贈呈

今後も、上級医の先生方やスタッフの皆さまのご指導のもと、さらなる成長を目指して研鑽を続け、チームの一員として少しでも力になれるよう尽力してまいります。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願ひいたします。

そがべ ひろふみ 曾我部 博文

名古屋徳洲会総合病院の心臓血管外科に勤務して、5年目を迎えました。これまで、透析患者さんにおけるシャントトラブルや下肢の血流障害、下肢静脈瘤といった末梢血管疾患の診療から、腹部大動脈瘤、さらには急性大動脈解離など、緊急性の高い心臓・大血管手術に至るまで、幅広い分野の診療に携わってまいりました。日常診療から緊急対応まで、多様な症例を経験する中で、心臓血管外科医として求められる判断力と技術の重要性を日々実感しております。



いずれの診療においても、安全性を最優先に考え、可能な限り低侵襲な介入を行うことを基本方針としております。患者様の身体的負担を軽減し、術後の回復や日常生活への早期復帰につなげられるよう、治療方法の選択や手技の工夫に常に配慮しながら診療にあたっています。

また、患者様一人ひとりの病状だけでなく、生活背景や治療に対する不安、価値観にも目を向け、丁寧な説明と対話を重ねることを大切にしています。信頼関係を築くことが安心して治療を受けていただくための基盤であると考え、患者様に寄り添った医療の提供を心掛けております。

当院では、急を要する症例に対しても迅速に対応できるよう、年中無休の診療体制を整えており、緊急時には24時間体制で適切な治療を行っています。私自身もその一員として、状況に応じた冷静な判断と確実な対応が求められる場面に数多く関わり、経験を積み重ねてきました。

今後も、患者様にとって安心で安全な医療を提供できるよう、これまでの経験に慢心することなく、診療技術のさらなる向上に努めてまいります。加えて、知識や判断力の研鑽を続けながら、より質の高い医療を地域の皆さまに還元できるよう、誠実に診療に取り組んでまいります。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願ひいたします。

ちかわ なつき
千川 夏輝

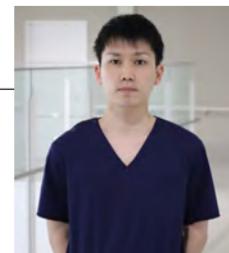
当院に勤務させていただいてから、まもなく3年
が経過しようとしています。この3年間で非常に多く
の手術に関わらせていただき、現在も日々研鑽を積
ませていただいております。症例を重ねる中で、心
臓血管外科医として必要な知識や技術、判断力の重要性を実感しながら、
経験を積み重ねてきました。

外来診療においても、多くの患者さんを担当させていただく機会が増
え、診察の際に声をかけていただくことも多くなりました。手術前後を通じて
患者さんの経過を継続的にフォローできることは、私自身にとって大きな
やりがいであり、診療の中での楽しみの一つでもあります。患者さん一人
ひとりの回復を間近で見守れることは、医師としての原点を再認識する
機会となっています。

また、当院での診療にとどまらず、全国の徳洲会病院への応援を通じて、
各地域の医療にも携わらせていただいております。地域ごとに異なる医療
体制や患者背景に触れることで、幅広い視点から医療を考える貴重な経
験を得ることができています。

当院ではスタッフ数も年々増加し、いわゆる「働き方改革」に沿った勤務
形態のもとで診療にあたるのが可能となってきました。自身の健康管理
にも十分に留意し、長く医療に携わっていただけるよう意識しながら、より
良い医療を皆さまに提供できるよう、今年も精一杯取り組んでまいりたいと考
えております。

また、私たち医師だけでなく、コメディカルを含めた病院全体としてさら
に成長できるよう、誠心誠意、日々の診療にあたってまいります。

なかの かずき
中野 一輝

このたびは、当院心臓血管外科年報をご高覧いた
だき、誠にありがとうございます。

私たち心臓血管外科は、急性大動脈解離をはじめ
めとする緊急性・重症度の高い疾患を多く扱う一方
で、地域の皆さまがこれまで通りの「いつもの生活」を安心して続けてい
けるよう支える医療を担っていると考えています。

専攻医として日々診療に携わる中で、手術そのものや集中治療の重要
性はもちろんのこと、外来診療や周術期管理、さらには多職種との連携が
患者さんの治療成績や満足度に大きく関わっていることを強く実感してい
ます。診療のあらゆる場面において、チーム医療の重要性を意識しながら
日々の業務に取り組んでおります。

また、地域の医療機関の先生方と密に連携を図り、患者さん一人ひと
りの病状や背景を踏まえた上で、最善の治療を提供できるよう努めていま
す。病院完結型の医療ではなく、地域全体で患者さんを支えていく医療の
一端を担うことが、私たち心臓血管外科医の重要な役割であると考えてい
ます。

今後も引き続き研鑽を重ね、知識や技術の向上に努めるとともに、患者
さんやご家族に安心して治療を受けていただける心臓血管外科医を目指
してまいります。地域医療に貢献できるよう誠実に診療に取り組んでまい
りますので、どうぞお気軽にご相談ください。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

ご挨拶 大垣徳洲会病院

かねみつ なおき
部長 金光 尚樹

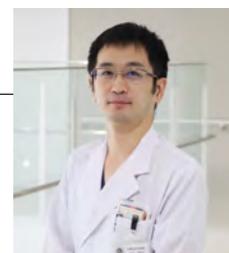
2025年5月より、大垣徳洲会病院 心臓血管外科に
入職いたしました。

前任地は千葉県で、それ以前は主に関西地方にお
いて、30年あまり心臓血管外科の臨床・研究・教育に
携わってまいりました。これまで多くの患者さんと向き合い、急性期医療か
ら専門性の高い治療まで、幅広い経験を積んできました。

現在は、山中統括部長の新体制のもと、医師・看護師・コメディカルなど
多職種のスタッフの皆さんと力を合わせ、安全で質の高い医療と、安心して
受診していただける医療サービスの提供を目指した体制づくりに取り組
んでいます。

地域医療を担う病院として、地域の中で求められる役割をしっかりと果
たし、一人ひとりの患者さんに寄り添った診療を大切にしていきたいと考
えています。

受診された方々に「大垣徳洲会病院にかかって良かった」と感じていた
だけよう、日々真摯に診療にあたってまいります。どうぞよろしくお願
いいたします。

こじま あきのり
部長 児島 昭徳

平素より大変お世話になり、誠にありがとうございます。
2025年4月より大垣徳洲会病院心臓血管外科にて勤
務しております。大垣徳洲会病院開院時にスタッフとし
て関わり、その後様々な研修を経て、再び常勤として関
われることを感慨深く思っております。

山中医師、金光医師を迎え、日置医師とともに4人5脚で日々の診療に
励んでおります。西濃地域の先生方に少しでも貢献できるよう、引き続き尽力
して参ります。2025年の大垣徳洲会病院は体制強化の1年でした。左心耳
クリップから始まり、MICS手術、ステントグラフト治療、下肢静脈瘤に対
しての塞栓療法など、様々な医療サービスが提供できるようになりました。

2026年も患者さんのニーズに最大限こたえられるように、精進して参
ります。大垣徳洲会病院でも循環器内科と密に連携し、患者さん及びそのご
家族様により安心より満足していただける医療を提供できるように励みたい
と思います。

ひおき かおる
医長 日置 薫

2025年4月から山中部長と児島部長、そして5月か
らは金光部長を迎え4人体制となりました。全員が自
身の上司になるわけですが、上司全員が手術経験豊
富で大垣徳洲会病院でできない心臓手術はないとこ
ろまで来ております。さらには血管内治療や低侵襲治療、末梢血管手術ま
で領域を広げて手術件数も昨年度から大幅に増加しました。
今まで以上に西濃地域に住む患者様のための診療を続けていき、地域の
皆様に安心していただけるよう精進して参ります。



▲大垣徳洲会病院

2025年トピックス

3月1日 当院で初のパルスフィールド治療を実施



▲PFAの1例目施行後に記念撮影



▲インペラを挿入した患者さんにPFAを実施、世界で初めて奏功

当院ではFARAPULSEを導入し、1月29日に1例目を実施。加藤千雄院長は「通常、合併症を回避するため、食道の温度を計りながらアブレーションを行うが、PFAには必要ないため手術時間の短縮につながる。当院では、PFAの適応疾患ではない患者さんに対し、今後も積極的にRFAを行う。繊細なカテーテル操作が必要なRFAは、若手医師の育成にも必要だと考える」と。

一当院では世界初症例奏功一

また2月に、心不全に対しインペラ（補助循環用ポンプカテーテル）を挿入した後、発作性心房細動を発症し状態が悪化、インペラ離脱が困難になった患者さんにPFAを施行し、世界で初めて奏功。加藤院長は「PFAのパルスがインペラに影響を及ぼさないか心配だったが、これしか方法がなかった。結果、患者さんは一命を取り留め、ICU（集中治療室）から一般病棟へ移り、退院した」。

さらに「PFAの導入により、循環動態の悪い症例にもアブレーションが実施できるようになり、造影剤が必要ないなど身体的負担も軽くなった。今後も心房細動の早期発見・早期治療に努めていきます」と述べた。

4月21日 インドネシア ハラパンキタ病院より幹部ら20名来日

4月12日から1週間にわたり、徳洲会グループが病院建設プロジェクトをすすめているインドネシア国立循環器病センター・ハラパンキタ病院から幹部ら20名が来日。

EXPO2025大阪関西万博を見学され、大阪府にある吹田徳洲会病院、国立循環器病研究センター、TIMC OSAKA（徳洲会国際メディカルセンター）などを視察、17日には、徳洲会の東京本部にもお越しいただき、建築プロジェクト会議も臨時に開催。

また、4月より、徳洲会グループの心臓血管外科医師がハラパンキタ病院で研修を開始するなどの人事交流もスタート。



▲プロジェクト会議の様子



▲TIMC OSAKA 視察

7月12日 Tokushukai Robotic Seminar 開催

7月12日・13日の2日間、東京国際フォーラムにて「第2回 Tokushukai Robotic Seminar」を開催。2日間で658名の方が参加。

今回は「つなぐ技術、ひらく未来」というテーマのもと、心臓血管外科・泌尿器科・消化器外科・呼吸器外科・婦人科の5診療科でプログラムを構成、ロボット手術に関する最新の知見や実践が共有された。

全国からロボット医療現場で活躍する著名な39名の医師らが登壇し、非常に内容の濃い学術集会となりました。特別講演も5演題あり、ロボット手術の将来像や、医工連携による技術進化、手術教育のあり方など、多角的な視点からの話題提供もあり、ロボット実機展示ブースセミナーなどもあった。

名古屋徳洲会総合病院からは、心臓血管外科の細羽創宇部長が登壇し「内視鏡手術からロボットへの移行」と題し講演を行った。

診療科の垣根をこえ、様々な方々と意見を交わす大変貴重な機会と

なった。今回のセミナーは、単なる知識の習得にとどまらず、若手医師の育成、全国の病院間の連携強化、さらには外科医療の未来を見据えた貴重な学びの場となった。泌尿器科の加藤竜雅医師からは、「名古屋徳洲会総合病院における単一術者によるRARP」のポスター提示もあった。診療科の垣根をこえ、様々な方々と意見を交わす大変貴重な機会となりました。明日から研鑽を積み素晴らしい経験をしていただき、来年も充実したロボットセミナーが開催できればと願っておりますと実行委員長を務めた大橋総長が会を締めくくった。



▲セミナーの様子



▲ロボット実機展示



▲細羽部長講演

8月1日 アジア太平洋血管学術連盟・徳州大会、徳州日中血管フォーラム



▲フォーラムの様子

8月1日、2日に中国山東省 徳州市にてアジア太平洋血管学術連盟 2025年徳州大会及び、第6回 徳州日中国際血管フォーラムが同時開催された。当院からは、心臓血管外科の大橋壯樹総長と、菱川敬規医長が参加。

この徳州日中血管フォーラムは、2018年に名古屋徳洲会総合病院に研修来日された王海慶先生が主幹となり、大橋総長と連携して開催、昨年よりオンサイトとのハイブリッド形式となった。



▲王海慶先生と大橋総長



▲開会式での大橋総長

第6回目となる本会は、中国の他地域、日本、イギリス、香港からも招聘されており、徳洲会グループからは13名が招待を受けて参加した。

名古屋徳洲会総合病院の他、6名の医師が参加、徳洲会の看護部チームも本部の他、計5名が参加し、併せて9演題の発表を行った。

【学会参加報告】菱川敬規 医長

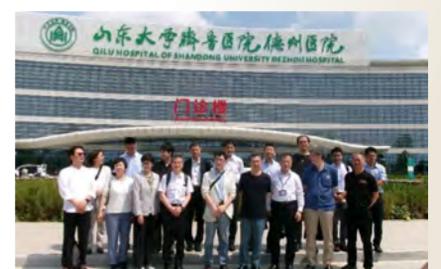
徳洲日中血管外科フォーラムにて、当院での破裂性腹部大動脈瘤の術後成績についてまとめ発表して参りました。ディスカッションの中で、やはり中国は件数など母体数が多く多種多様な経験からどの様に救命率を上げるかなど活発な議論が出来とても有意義な時間を過ごすことができました。学会の後には瀋陽の中国医科大学附属第一医院にて谷教授の手術を一緒に術野で見学させて頂きました。年間数千例手術を行う病院であり、谷教授の手術やチームとしての動きも大変洗練されており学びになるとともに日頃の臨床に活かせる点を多く学ぶことが出来ました。



▲菱川医長が手術見学



▲菱川医長



▲山东大学齐鲁医院徳州病院にて記念撮影

7月29日 山東大学齐鲁医院德州医院から病院見学に来日



▲ヘリポートなどを見学



▲視察団と記念撮影

中国の山東大学齐鲁医院德州医院より、王振東先生、王海慶先生が名古屋徳洲会総合病院を訪問。当日は、当院の特色の一つである屋上ヘリポートをはじめ、緩和ケア病棟、手術室、救急救命室など、幅広い部門を見学。

各部門の責任者から設備や運営体制について説明を受けられ、最新の医療環境や取り組みに大変関心を示されていた。

見学後には、医療提供体制の違いや地域に根ざした病院運営の工夫などについて活発な意見交換が行われ、病院経営や今後の医療のあり方について熱く語り合う場面もあった。

8月13日 インドネシア訪問

8月11日、大橋壯樹総長は、東上震一理事長をはじめとする徳洲会幹部とともにインドネシアを訪問。到着後、インドネシア保健省およびハラパンキタ病院から温かい歓迎を受けた。

翌12日は、徳洲会が資金協力して建設を進めている新ビルディングの進捗状況を確認し、関係者との協議を実施。

また、本年5月よりハラパンキタ病院にて心臓血管外科フェロー研修を行っている山内博貴医長から、現地での研修の様子を伺い、今後は看護師の交流も始めたいとの要望を受けた。



▲工事関係者と記念撮影



▲インドネシア国立脳センター病院を見学

さらに、脳血管疾患の分野でも連携を進めたいとの意向を受け、「インドネシア国立脳センター病院」を見学。午後からは、現地財閥が開発を進める「BSD City」へ移動し、医療特区に指定される候補地を含め、街全体を視察した。

8月26日 ベトナム心臓血管協会 会長ご来訪

ベトナム心臓血管協会のフィン・ヴァン・ミン会長ならびに協力会社の代表の方々が当院を訪問された。今回の訪問では、新規病院開設に向けた意見交換が行われ、医療体制の構築や人材育成、今後の運営のあり方などについて、幅広い視点から活発な議論が交わされた。双方のこれまでの取り組みや経験を共有しながら、将来的な協力体制の可能性について意見を深める有意義な機会となった。

また、院内見学では、緩和ケア病棟や集中治療室（ICU）をはじめ、手術支援ロボット「ダヴィンチ」をご覧いただき、実際の医療現場や設備について説明を行いながら、当院が大切にしている医療の考え方や診療体制について理解を深めていただきました。



▲意見交換会の様子

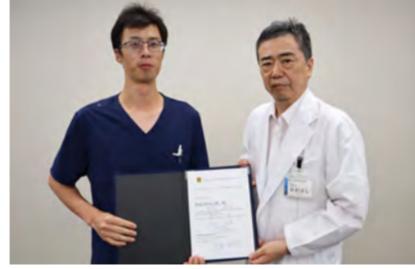


▲細羽部長がICUをご案内

9月30日 中国から張東医師が研修に

2024年10月1日から2025年9月30日までの1年間、中国江蘇省揚州市の揚州大学から張東医師が研修に来られた。

研修では、張医師は多くの手術に立ち会ったほか、当院の医師らと交流を深めた。徳洲会グループは、今後も国際医療貢献を含め、地域の皆さまのお役に立てる医療グループを目指します。



▲大橋総長から修了証授与



▲総長、院長、心臓血管外科医師らと記念撮影

9月14-15日 第3回徳洲会国際心臓血管セミナー in 葉山



▲セミナー会場の様子



▲大橋総長によるごあいさつ

9月13日、14日の2日間、神奈川県湘南国際村センターにて、徳洲会主催「第3回 徳洲会国際心臓血管セミナー in 葉山」が開催された。

今回のテーマは「Advances in Coronary Artery Disease Managements」。名古屋徳洲会総合病院からも現地参加し、国内外から集まった心臓血管外科医・循環器内科医と活発な交流を深めることができた。

本セミナーは、大橋総長が実行委員長として運営を指揮。プレセッションを含め35演題が発表され、そのうち海外（アメリカ・中国など）からは8演題の発表があった。会場・オンラインを合わせて、延べ831名の参加者が集まり、盛況のうちに幕を閉じた。

当院からは、14日のセッション6「最先端のIMPELLAとロボット支援CABG」において、当院院長で循環器内科部長の加藤千雄先生が座長を務め、会の進行を担った。

最後に大橋総長が閉会の挨拶を行い、セミナーは大盛況のうちに幕を閉じた。

9月14-16日 Asia-Pacific Angiology Academic Alliance Congress

9月14日～16日の3日間、中国マカオにて、「第11回 Asia-Pacific Angiology Academic Alliance Congress (APAC)」が開催された。

本会議には、アジア太平洋地域を中心に世界各国から多くの医療者・研究者が集い、最新の知見や各国の取り組みが活発に共有された。

大橋総長は、2日目の分野のセッションに参加し、「Femoral artery endarterectomy followed by endovascular intervention」について当院の取り組みについて紹介するとともに、セッションの座長も務め、国際的な舞台上で活発な議論をリードした。会場では多くの参加者と意見交換を行い、医療の発展や臨床研究の推進に向け意見交換を行った。



▲大橋総長の発表の様子



▲座長を務める大橋総長

❁ 10月4日 第26回 心臓血管外科術後の会 開催 ❁ ❁ 10月24日 第10回 徳洲会心臓血管外科部会 開催 ❁



▲心臓血管外科術後の会 会員さんとスタッフで記念撮影

26回目となる心臓血管外科術後の会を海と空と風の宿 ホテル明山荘さんにて開催。患者さんやスタッフなど、総勢90名ほどが参加。

医療講座と専門スタッフによる医療講演を行い、その後は、温泉入浴などで癒しのひと時を過ごし、昼食ご宴会では、三木医師によるバイオリンコンサートを楽しんで頂いた。また、大好評のお楽しみ抽選会では、当選した患者さんやご家族さまからお喜びの声を頂いた。今年も皆様のお元気な様子をうかがうことができた。



▲大橋総長による講演 ▲質問に答える三木医師



▲昼食会場での一枚

❁ 10月11日 第2回 地域医療機関をつなぐ会 開催 ❁



▲地域医療機関をつなぐ会の様子



▲徳洲会体操クラブ 米田 功 監督 特別講演

第2回目となる「地域医療機関をつなぐ会」を、ホテルプラザ勝川にて開催。当日は、地域の医療機関の先生方や医療従事者の皆さまなど、総勢125名にご参加いただき、盛会のうちに終了した。

本会は、当院と地域の医療機関の皆さまとのさらなる連携強化を目的として開催しているもので、これまでの歩みや取り組みを共有し、今後の地域医療のあり方について意見を交わす場として企画。

この会を通じて、当院の診療内容や役割について理解を深めていただくとともに、地域の先生方や医療に携わる皆さまとのつながりを一層強め、新たな未来を見据えた協力関係を築いていくことを狙いとしている。

今回は特別講演として、パリオリンピックで金メダリストを輩出した徳洲会体操クラブの米田 功監督をお招きし、「世代を超えて金メダルを生み出すチームづくり」と題してご講演いただいた。長年にわたりトップアスリートを育成してきた指導者ならではの視点から、チームづくりにおいて大切にしている考え方や人材育成のあり方について、熱意あふれるお話が語られた。

講演後には、地域の先生方から「一流の指導者の言葉に胸を打たれた」「医療現場にも通じるチームづくりの極意を感じた」など、多くの感想が寄せられた。競技の世界で培われた経験や哲学が医療の現場にも重なる部分が多く、参加者一人ひとりが自身の業務を振り返るきっかけとなる、非常に示唆に富んだ講演となった。

金メダリストを育て上げた監督ならではの説得力ある言葉と情熱に、会場全体が引き込まれ、参加者にとって学びと刺激に満ちたひとときとなりました。今回の会を契機に、地域医療機関との連携をさらに深め、今後も地域医療の発展に貢献していきたいと考えています。



▲心臓血管外科部会での集合写真

第10回徳洲会心臓血管外科部会が、大阪府内にて開催された。本部会では、千葉西総合病院の中村喜次・副院長兼心臓血管外科部長が部会長を務め、全国各地から心臓血管外科医師をはじめ、臨床工学技士を含む約40名が参加。当日は、日常診療や手術に直結するテーマを中心に、症例報告や意見交換が行われ、参加者それぞれが知識や経験を共有しながら研鑽を深めた。施設や地域によって異なる診療体制や工夫について活発な議論が交わされ、参加者にとって非常に有意義な学びの場となった。

また、心臓血管外科医だけでなく、臨床工学技士を含めた多職種が一堂に会することで、チーム医療の重要性を改めて認識する機会ともなりました。手術室や集中治療室における連携の在り方についても意見が交わされ、現場での実践につながる示唆が多く得られた。

今回の部会を通じて、徳洲会グループとしての診療の質の向上を目指すとともに、施設間のつながりをさらに強化する意義を再確認することができた。

❁ 12月5日 第3回 インドネシア国際心臓血管サミットに参加 ❁



▲サミット開会式の様子



▲細羽部長による発表

インドネシアのジャカルタにて開催された「第3回 INDONESIA INTERNATIONAL CARDIOVASCULAR SUMMIT」に、当院から大橋総長および細羽部長が参加。

本サミットは、アジア地域を中心に循環器・心臓血管外科領域の専門家が集い、最新の知見や技術について議論する国際的な学術集会。細羽医師は「完全内視鏡下心臓手術 (Total Endoscopic Cardiac Surgery)」をテーマに発表を行った。本発表により、当院の取り組みを海外に向けて発信する貴重な機会となった。

—ハラパンキタ 徳洲会循環器病センターとの施設見学および交流会—



▲工事中の病院見学



▲交流会で挨拶する大橋総長

サミット参加に合わせて、徳洲会グループが推し進めるハラパンキタ徳洲会循環器病センターを訪問。

工事中の病院見学に加え、現地スタッフとの意見交換・交流会を通じ、インドネシアにおける心臓血管治療の現状を学ぶ機会となりました。また、両国間での医療交流の可能性についても意見を交わすなど、今後の連携に向けて大変有意義な時間となった。



▲現地スタッフと大橋総長



▲交流会での細羽部長

名古屋徳洲会総合病院 心臓血管外科 2025年 心臓大血管手術成績
(1月1日～12月31日)

冠動脈バイパス手術		39 例		術後死亡		術後合併症					
		1ヶ月以内	1年以内	出血	脳梗塞	呼吸不全	創部感染	縦隔炎			
予定	32	0	0	1	0	0	0	0			
緊急	7	1	0	0	0	0	0	0			
オフポンプバイパス手術		34 例		全単独冠動脈バイパス手術		35 例					
daVinci手術		6 例		全冠動脈バイパス手術(合併手術含)		48 例					
開胸弁膜症手術		101 例		術後死亡		術後合併症					
予定	79	0	1	0	0	0	0	0			
緊急	22	1	1	1	4	1	0	1			
MICS手術 (うちdaVinci使用)		50 例 6 例		弁形成		42		不整脈手術			6
他の心臓手術		25 例		術後死亡		術後合併症					
予定	10	1	0	0	0	0	0	0			
緊急	15	2	2	0	0	1	0	0			
開胸胸部大動脈手術		166 例		術後死亡		術後合併症					
予定	59	0	1	2	2	2	0	0			
緊急	107	10	7	4	11	7	0	1			
開腹腹部大動脈手術		63 例		術後死亡		術後合併症					
予定	42	0	0	0	0	0	0	0			
緊急	21	5	3	1	1	2	0				
末梢血管手術		55		予定		26					
				緊急		29					
シャント手術		218		予定		149					
				緊急		69					
静脈手術		34		予定		34					
				緊急		0					

同時に2種類以上の手術の場合は主要手術のみに含めた

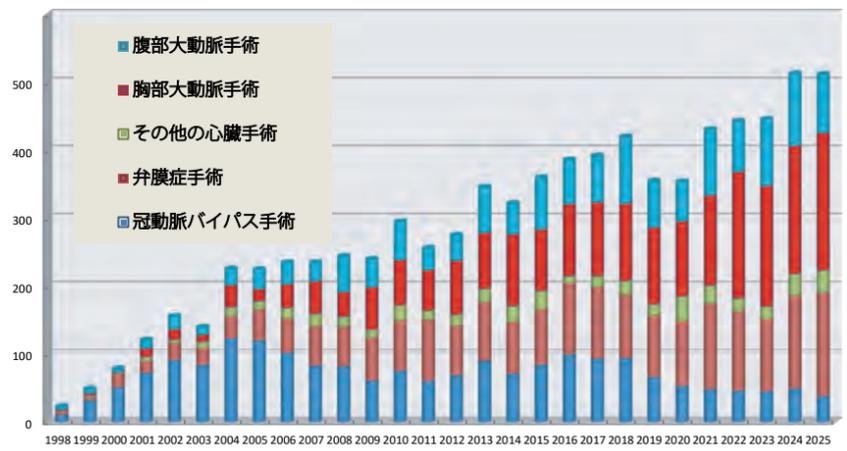
術後死亡	1ヶ月以内	手術後1ヶ月以内に死亡したもの(原因を問わず)
	1年以内	手術後1年以内に入院中に死亡したもの(原因を問わず)
出血		術後出血により再手術を要したもの
脳梗塞		術後1ヶ月以内に神経学的異常又は頭部CTにて異常を示したもの
呼吸不全		術後1週間以上の人工呼吸を要したもの(原因を問わず)
創部感染		皮下に局限した哆開を伴う感染
縦隔炎		胸骨より深部の感染にて処置の必要なもの

成績は定義通りに判断

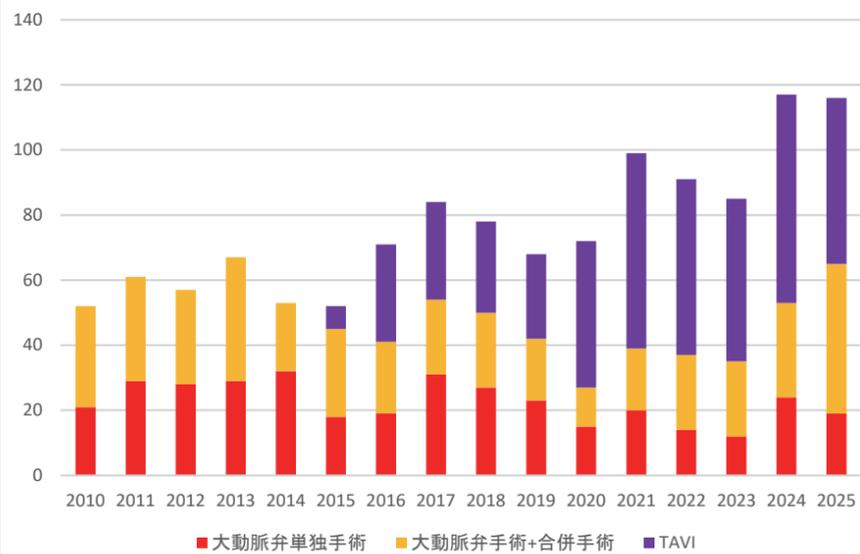
心臓血管外科手術数



各手術数推移グラフ



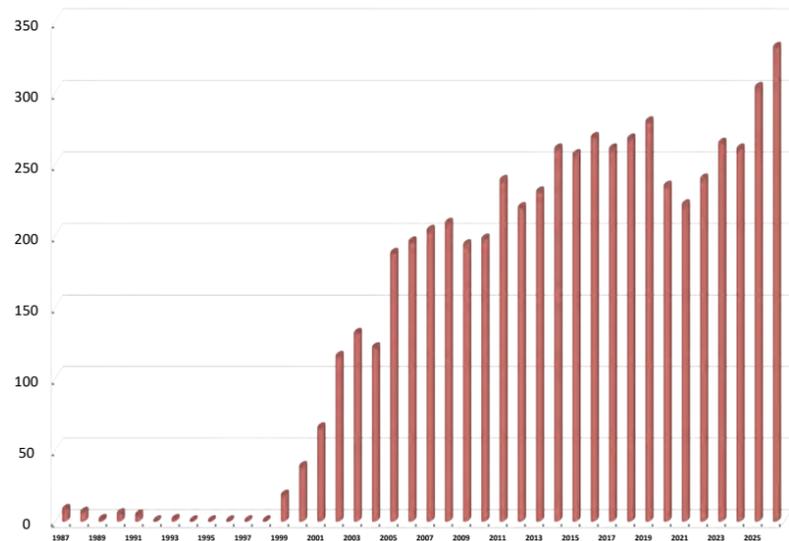
大動脈弁手術件数



2023年まではAVR(単独)、AVR+合併手術

2024年から大動脈弁手術(置換+形成)、大動脈弁手術+合併手術

開心術推移



名古屋徳洲会総合病院
全手術数(1998年開設以来)

術式	手術数
冠動脈バイパス術	1996
弁膜症手術	2003
胸部大動脈瘤	2216
心筋梗塞合併症手術	122
先天性疾患	51
肺血管手術	27
心臓内腫瘍	51
その他の心臓手術	192
腹部大動脈瘤	1397
末梢血管手術	1271
静脈手術	907
シャント手術	2606

TEVAR, EVAR, TAVI含む

大垣徳洲会病院 2025年

術式	合計
開心術	24
MICS	5
その他	6
胸部大動脈瘤	9
血管手術	4
静脈瘤手術	9
シャント手術	14
漏斗胸	8

名古屋徳洲会総合病院 研究報告

[学会]

- 第55回 日本心臓血管外科学会学術総会 (2月20～22日 下関)
 - 《一般講演》心筋梗塞後心室中隔穿孔(VSR)に対する術前Impella導入による治療戦略 山内 博貴
 - 《一般講演》低心機能を伴う重症ASおよび左室内血栓に対して内視鏡下MICSにて加療した一例 曾我部 博文
 - 《座長》 大橋 壯樹
 - 《一般講演》弓部大動脈瘤に対するオープンステントグラフト法を用いた全弓部大動脈置換術の成績 森田 英男
- 第26回 South Congress of Cardiology (3月20～23日 中国 広州)
 - 《依頼講演》Endoscopic Maze and LAAM procedure 細羽 創宇
- 第7回 ストラクチャークラブ Webinar Focus Mitral & Tricuspid (5月17日 Web)
 - 《座長》 細羽 創宇
- 第165回 日本循環器学会東海地方会 (6月7日 名古屋)
 - 《一般講演》開胸歴のある患者に完全内視鏡MICSにて再手術を施行した7例の報告 曾我部 博文
- 第68回 関西胸部外科学会学術集会 (6月19～20日 津)
 - 《一般講演》正中大動脈弁置換術後に心拍動下内視鏡下三尖弁形成術を施行した一例 三木 紹君
 - 《一般講演》僧帽弁形成術後に再発した僧帽弁閉鎖不全症に対して胸腔鏡下再僧帽弁形成術を施行した一例 菅 健太
- 第9回 日本低侵襲心臓手術学会学術集会 (7月5日 宇都宮)
 - 《一般講演》単独三尖弁疾患に対する心拍動下内視鏡三尖弁形成手術 菱川 敬規
 - 《一般講演》内視鏡下AVR 細羽 創宇
- 第2回 Tokushukai Robotic Seminar (7月12～13日 東京)
 - 《依頼講演》内視鏡手術からロボットへの移行 細羽 創宇
- 第33回 日本心臓血管インターベンション治療学会学術集会:CVIT2025(7月17～19日 大阪)
 - 《コメンテーター》 細羽 創宇
 - 《依頼講演》三尖弁逆流に対する外科手術 細羽 創宇
 - 《パネルディスカッション》Con: Intermediate riskのDMRに対するMitral TEERの可能性 細羽 創宇
- 第6回 德州中-日血管外科国際シンポジウム (8月1～2日 中国 山東省 徳州市)
 - 《一般講演》Emergency Open Surgical Repair for Ruptured Abdominal Aortic Aneurysm at Our Institution 菱川 敬規
 - 《座長》 大橋 壯樹
- 第15回 日本経カテーテル心臓弁治療学会学術集会 JTVT 2025 (8月1～2日 横浜)
 - 《コメンテーター》 細羽 創宇
- 第14回 SEOUL VALVES (8月7～8日 韓国 ソウル)
 - 《コメンテーター》 細羽 創宇
- ENDOSCOPIC CARDIAC SURGEONS CLUB (9月4～6日 アメリカ シンシナティ)
 - 《依頼講演》AVR Endoscopic Triangulation 細羽 創宇
 - 《パネリスト》(9月5日、6日) 細羽 創宇
 - 《依頼講演》Endoscopic Experience Around the World 1. Japanese Experience 細羽 創宇
 - 《ビデオ》Endoscopic repair for post infarction ventricular septal defect 細羽 創宇
- 第11回 International Endovascular Leaders Summit Asia-Pacific Angiology Academic Alliance Congress (APAC) (9月14～16日 中国 マカオ)
 - 《依頼講演》Femoral artery endarterectomy followed by endovascular intervention 大橋 壯樹
 - 《座長》 大橋 壯樹

- Hong Kong Valves 2025 (10月17～19日 中国 香港)
 - 《依頼講演》All you need to know about Mitral Valves from Surgical Teaching 細羽 創宇
 - 《座長》 細羽 創宇
- 一酸化窒素吸入療法 iNO Expert meeting (10月18日 Web)
 - 《座長》 大橋 壯樹
- 第78回 日本胸部外科学会定期学術集会 (10月23～25日 大阪)
 - 《一般講演》Zone0からのFrozen Elephant Trunk(FET)を用いた全弓部大動脈置換術の治療成績 菱川 敬規
- Chinese Minimally Invasive Cardiovascular Surgery Congress 2025 (10月20～26日 中国 泉州)
 - 《依頼講演》Endoscopic Maze and LAAM procedure 細羽 創宇
- 日本循環器学会 第166回東海・第151回北陸合同地方会 (10月25～26日 富山)
 - 《一般講演》ロボット支援下冠動脈バイパス術33例の中期成績 菅 健太
 - 《一般講演》完全内視鏡下VSD修復術を施行した一例 曾我部 博文
- 2025 ECHO360 Structural Heart Imaging with Asia Valve (10月31日～11月1日 韓国 ソウル)
 - 《依頼講演》TEER vs Surgical MV repair for functional MR: The State of the Art 細羽 創宇
 - 《パネリスト》 細羽 創宇
- 第3回 Indonesia International Cardiovascular Summit 2025 (11月22～23日 インドネシア ジャカルタ)
 - 《依頼講演》Total Endoscopic Cardiac Surgery 細羽 創宇
- 第38回 日本冠疾患学会学術集会合同シンポジウム (11月28～29日 名古屋)
 - 《シンポジウム》LAD近位部病変に対する治療(外科の立場から) 細羽 創宇
- ストラクチャークラブ・ジャパン ライブデモンストレーション2025 (12月5～6日 横浜)
 - 《依頼講演》Atrial FMRに対する外科治療 細羽 創宇
- 第15回 日本心臓弁膜症学会 (12月19～20日 広島)
 - 《シンポジウム》Endoscopic beating-heart tricuspid repair 細羽 創宇

[論文]

- 《題名》民間病院における植込み型補助人工心臓治療の挑戦
胸部外科 (78,255-259,2025) 大橋 壯樹
- 《題名》ロボット手術による心臓腫瘍摘出術を行った3例の経験
心臓 (57,401-406,2025) 山内 博貴
- 《題名》Rapidly progressive obstructive bioprosthetic valve thrombosis after surgical aortic valve replacement: a case report
European heart journal. Case reports (9,ytaf289,2025) Soh Hosoba
- 《題名》Impact of Initial Axillary Microaxial Flow Pump on Post-Myocardial Infarction Ventricular Septal Defect Management
Interdisciplinary cardiovascular and thoracic surgery (40,ivaf253,2025) Soh Hosoba
- 《題名》Complete entry closure in isolated abdominal aortic dissection with a vascular plug: a case report
European heart journal. Case reports (9,ytaf533,2025) Soh Hosoba

大垣徳洲会病院 研究報告

[学会]

- 第55回 日本心臓血管外科学会学術総会 (2月20～22日 下関)
 - 《座長》「冠動脈バイパス、心筋梗塞合併症 3」 山中 一朗
- 第68回 関西胸部外科学会学術集会 (6月19～20日 津)
 - 《座長》「一般演題 2 心臓・大血管 その他2」 山中 一朗
- iNO Cardiovascular Surgery Forum (10月18日 沖縄 那覇)
 - 《一般講演》開心術周術期のNO療法適応とタイミング 山中 一朗
- 第78回 日本胸部外科学会定期学術集会 (10月23～25日 大阪)
 - 《一般講演》The effectiveness of the Nara Aortic Emergency Triage Score (NAETS) in triaging aortic emergencies in Nara. 山中 一朗
- 徳洲会心臓血管外科部会 (10月23日 大阪)
 - 《依頼講演》奈良県の大動脈緊急症トリアージにおけるE-matchアプリの有効性に関する臨床研究 山中 一朗
- 奈良県救急搬送及び医療連携協議会 令和7年度第1回胸痛・急性冠症候群部会(奈良 橿原)
 - 《依頼講演》奈良県の大動脈緊急症トリアージにおけるE-matchアプリの有効性に関する臨床研究 山中 一朗

[論文]

- 《題名》Surgical Strategy of Intravenous Leiomyomatosis with Intracardiac Extension: A Case Report.
Ann Vasc Dis 2025 (18(1):25-00062.) Yamanaka K
- 《題名》Long-term survival evaluation after transcatheter aortic valve implantation in patients with severe aortic valve stenosis: a retrospective cohort study.
Sci Rep. 2025 Apr 1 (15(1):11161.) Yamanaka K
- 《題名》心臓血管外科医はどこに向かって行くのだろうか？
胸部外科 (78 (9) : 697,2025) 山中 一朗